

令和4年度 第1回 印西市青少年問題協議会 要旨

- 1 開催日時 令和4年7月19日(火)
午前10時00分から11時00分まで
- 2 開催場所 印西市役所 4階 41会議室
- 3 出席委員 板倉会長(市長)、大木委員(教育長)、御子柴委員、小川委員、
齋藤委員、山口委員、天野委員
代理出席及び講師：印西警察署 生活安全課 永井氏
- 4 欠席委員 佐藤委員
- 5 事務局の出席 鈴木生涯学習課長、飯野指導課副参事、坂巻社会福祉課係長、
山崎主査補、鳩主任主事
- 6 内容 講演「印西市における青少年犯罪の状況について」
講師：印西警察署 生活安全課 永井氏

議事

- (1) 令和4年度青少年健全育成関係事業について

7 会議要旨

講演「印西市における青少年犯罪の状況について」

講師 (印西警察署管内における青少年犯罪等の状況についての講演)

令和4年6月末時点 カッコ内は令和3年6月末時点との比較
刑法犯認知件数 458件(+79件)
うち 窃盗 350件(+55件)
詐欺 16件(+12件) など

少年事件等について
少年補導 152件(+58件)
うち 喫煙、深夜帯の外出が多くを占める
少年事件 8件(△ 3件)

質疑等なし

議事(1) 令和4年度青少年健全育成関係事業について

事務局 青少年健全育成関係事業について、資料に基づき説明。

- 事務局 児童生徒の安全確保についての取組について、資料に基づき説明。
- 委員 小中学校への防犯カメラの設置が完了とあるが、どこに何台設置しているか。
- 事務局 各学校の門を中心に、児童生徒が出入りする場所に設置している。各学校3台設置している。
- 委員 学校を取り巻く環境が複雑化しており、学校への侵入を防ぐことを目的として設置している。学校の敷地への出入口に設置し、撮影できるようにしている。基本的に各校3台予算要望し、設置しているが、中にはフェンスがない学校もあるため、そういった学校は台数を増やしている。全てを網羅できているわけではないが、侵入者があった場合には対応できるようになっており、安全は確保されているかと考える。フェンスがない学校については台数を増やす等、対応していく必要はある。基本的に入ってくる様子がわかるようにしているが、公道側が映るようにすると、地域住民の方からご意見をいただくことがあるため、公道側が映らないようにしている部分もある。
- 意見・質問等については以上。
議事（1）についてご理解いただいた。
- 委員 説明した内容については、理解いただけたと思うが、青少年問題協議会の所掌事務として、条例第2条において「協議会は、次に掲げる事務をつかさどる。」とし、「（1）青少年の指導、育成、保護及び矯正に関する総合的施策の樹立につき必要な事項を調査審議する。」となっている。事務方から、青少年健全育成関係事業及び児童生徒の安全確保についての取組について、説明があったが、漏れているものがある。保護、矯正について、説明ができていないと考える。近年、課題となっている引きこもり及び不登校に対して、どのような対策を行っているのか、委員の皆さまにも知っていただくべきかと考える。本日、社会福祉課からも出席してもらっているが、出席予定であった子育て支援課の行っている事業についても併せて説明していただきたい。
- 事務局 社会福祉課においては、青少年に限定した支援としては実施していないが、年齢にかかわらず、介護、障がい、子育て、生活困窮等の福祉に関する困りごとを誰でも気軽に相談できる体制づくりに取り組んでいる。令和3年度からは社会福祉課内に「福祉の総合相談窓口」を設置し、相談を受け付けている。内容に応じて、関係課及び関係機関と連携し、支援につなげるよう努めている。子育て支援課においては、子育て家庭の不安や悩みの解消に向けた相談体制の整備・充実、また、虐待防止の啓発、関係機関との連携による早期発見・早期対応に努めている。児童の権利擁護の観点から、主に児童虐待相談対応を行っており、あわせて家庭内での養護、障がい、非行、育成等の児童に関

する困りごとに対して、保護者への家庭児童相談に応じている。

委員

中学校を卒業してしまうと、教育委員会の学校教育の部分では関われなくなってしまう。30日以上長期欠席者が毎年増えている。そういった子どもたちについては、学校や適応指導教室にて対応しているが、卒業・高校進学までつながる子どもは一部である。学校にも行けない、適応指導教室にも行けないという子どもたちには、家庭訪問を行うなど、社会性が育まれるような場に出てきてもらえるよう働きかけているが、中学校を卒業してしまうと、学校では関われなくなる。相談に行ける子ども・家庭には対応できるが、外に出られない子どもたちはどのように救っていくのか。社会的に生活できるような状況になっていくことが難しい。適応指導教室において、学校にも適応指導教室にも行けない子どもたちに働きかけを行うため、訪問相談員による家庭訪問を行っているが、現状は難しい。中学校を卒業した後、引き継ぐ先がないことが最大の課題である。印西市の中でも対応が可能な部署があるため、広げていけるよう進めていく必要がある。かつて8050問題と呼ばれていたものが、9060問題となっている。この問題を解決するにはこの会議の中で、各団体から選出していただいている、委員の皆さまから意見をいただき進めていく必要があると考えている。

以上

使用した資料

令和4年度 第1回 印西市青少年問題協議会 資料

令和4年度 第1回 印西市青少年問題協議会 要旨は、事実と相違ないので、当会は、これを承認する。

令和4年 8月 4日

印西市青少年問題協議会

署名委員 御子柴 寛
